

「マツムシソウ」

「タンポポの花を見に行ってきたよ」と誰かが言っても、「あっそう」または「へー、それで？」で会話は終了です。しかし、「マツムシソウを見てきたよ」となれば、「ほう、どこに咲いていましたか?」「もう咲きましたか!」と会話が続きます。少しは珍しく、そして魅力的な野草だということなのでしょう。

マツムシソウ(松虫草)は高原に自生する、マツムシソウ科の野草です。控えめな薄紫色の美しい花を咲かせるので、ハイカーや写真家に人気があります。マツムシソウという初秋らしい名称も好まれる理由です。実際にマツムシ(秋の夜にリーリーリーと一晩中鳴いている、あいつ)の食草になったり、形状が似ているわけではなく、マツムシが鳴くのと同時期に花が咲く・・・という意味のようです。北軽井沢も、いよいよマツムシソウの時期になりました。



「マツムシソウ」 *Scabiosa japonica*

美しい薄紫の花。よく見ると、花弁が「ウマノアシガタ」の葉のような面白い形をしています。
(鹿沢高原・棧敷山山麓)

(お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋)